

## 坂本城の時代 — 石垣・天主・瓦を持つ城の出現 —

中井 均 (NPO法人 城郭遺産による街づくり協議会理事長)

### ◆はじめに

- ・城の時代 ⇒ 村々に構えられた戦国時代の城や館【全国に3~40,000ヶ所、滋賀県では1,300ヶ所に分布】
- ・土から成るもの ⇒ 城は軍事的な防御施設【戦国時代の城は土木施設：普請】

### ◆織田・豊臣系城郭の成立

- ・安土築城の画期 ⇒ 石垣(高石垣)・礎石建物(天主)・瓦(金箔瓦)という3つの要素によって構成される城郭の出現【土の城から石の城へ】
- ・戦う城から見せる城へ ⇒ 統一政権のシンボルとして
- ・近世城郭の始祖 ⇒ 戦国の城とは明らかに一線を画する構造【以後の日本の城に大きな影響を与える】

### ◆安土城に先行する諸要素

- ・石垣 ⇒ 信長の城【小牧城、岐阜城】  
地域的現象【信濃(松本)、美濃、近江、西播磨、東備前、北部九州】  
観音寺城 ⇒ 城域のほぼ全体を石垣によって築く【「御屋形様御石垣打」、  
「上之御石垣」(金剛輪寺文書『下倉米銭下用帳』天文5年：1536)】
- ・天主 ⇒ 礎石建物は認められるものの天主は認められない  
※穴蔵を持つ礎石建物【鎌刃城跡(米原市)、小川城跡(甲賀市)、関津城跡(大津市)】
- ・瓦 ⇒ 信長の城【岐阜城】  
地域的現象【備前、北部九州、岡豊城跡(高知県：天正4年(1576)銘)】

### ◆坂本城の評価

- ・築城は元龜3年(1572) ⇒ 安土築城(天正4年：1576)の4年前【天主】
- ・天主の存在 ⇒ 「城中**天主**作事以下悉被見也。驚目了。」(『兼見卿記』元龜3年12月24日条)
- ・天主の構造 ⇒ 「**天主**之下立小座敷」、「於**小天主**有茶湯」(『兼見卿記』天正10年(1582)正月20日条)【複合式(大天主+小天主)もしくは連結式(大天主+渡櫓+小天主)形式の天主】

- ・安土城(天正4年)に先行する天主の存在  
 ※勝龍寺城(京都府)「殿主」の存在(元龜2年; 1571)

【石垣】

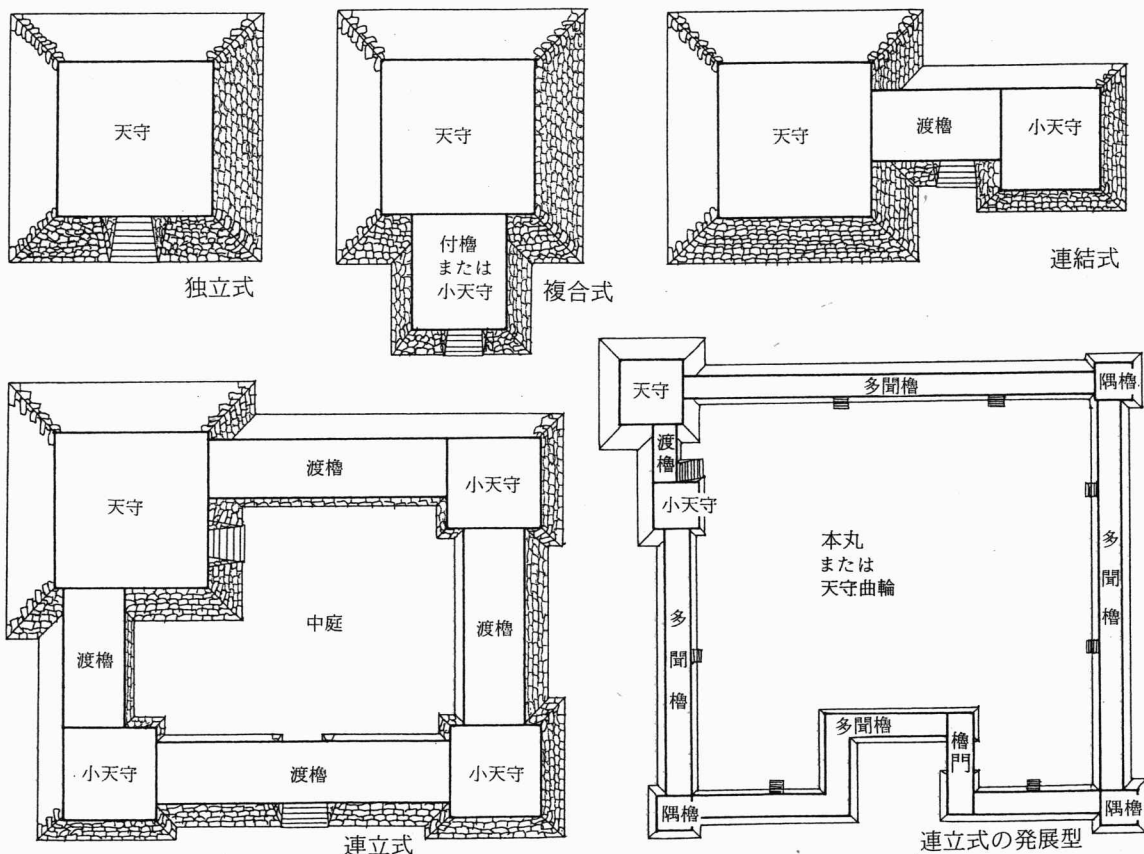
- ・湖中に残る石垣 ⇒ 胴木を備えた工法(勝龍寺城、安土城)

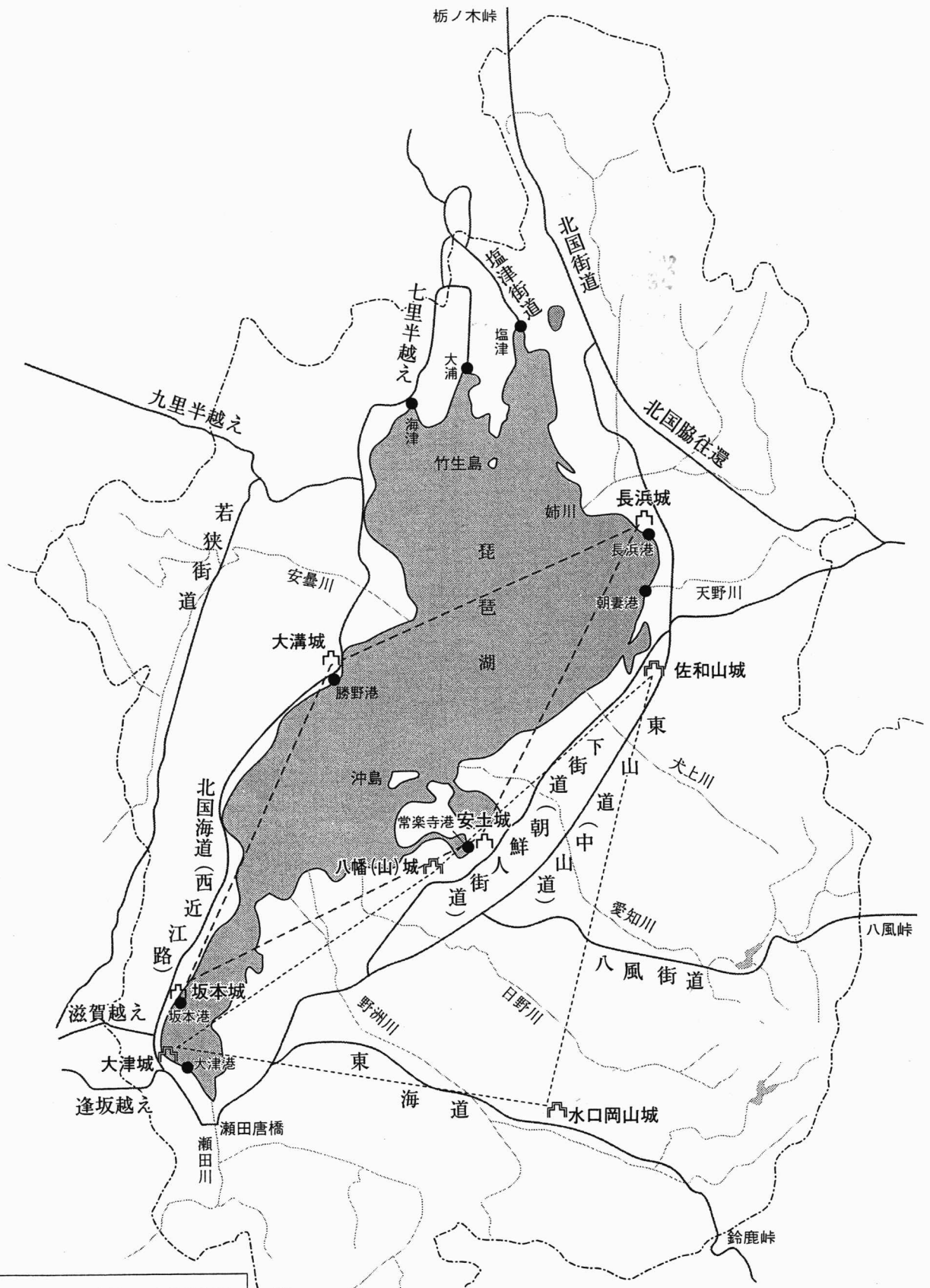
【瓦】

- ・坂本城・勝龍寺城・小丸城(福井県) ⇒ 同範【同一工人による生産体制】
- ・坂本城・大津城 ⇒ 移築を示す関係
- ・安土城に先行する瓦の使用

◆おわりに

- ・坂本城の構造 ⇒ 安土城に先行する織田・豊臣系城郭としての位置付けが可能
- ・明智光秀による築城か ⇒ 近江における織田・豊臣期の城郭分布【信長の湖の城郭網】
- ・信長の強力な意思 ⇒ 坂本城【元龜3年】、長浜城【天正元~4年】、大溝城【天正6年】
- ・坂本城はその選地、構造から明智光秀が単独で築いたものではなく、信長の強い指示のもとに築城された【石垣工人、瓦工人、天主建築の大工らの貸与】
- ・坂本城は安土城の試作として築かれる【大築城時代の集大成】





- ⌘ 信長時代の主要城郭
- ⌘ 秀吉時代の主要城郭
- 主な港